



題字 井口 文章
再刊 第397号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2022

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：今年も盛り上がった錦城祭の様子をお届け
来場した一般客の声は
二面：夏休みに活躍した部活動特集
また間に合う！1年生部員急募

個性を集結させた2日間

大盛況の錦城祭閉幕

3年ぶりに一般客を招くなど、コロナ禍前の開催形式に近い形で行われた錦城祭が閉幕した。今号では個性豊かな2日目の企画の様子や、訪れた一般客の声をお届けする。

斬新な発想で盛り上がる

「メイドin緑日」という名前前で企画を行った1F。的当で、射的、ピンポン玉入れの3つのゲームを行い、各コーナーに応じて貰えるポイントの合計によって景品が獲得できるという仕組みの企画だそう。女装メイドによる宣伝や丁寧な接客が魅力的であり、錦城祭当日は多くの客が訪れて盛り上がりがあった。この企画について山口恵大



最後まで笑顔のダンス部の公演

昔懐かしい緑日企画

2年J組が行ったのは「わんぱく2丁目商店街」という緑日企画。室内は懐かしの昭和レトロな雰囲気であらわされている。スパーボールすくい、射的、輪投げの全3ステージに分かれており、合計得点に応じてもらえるお菓子が変わった。黒板には富士山を描いたイラストを模した装飾が施されフォトスポットとなっていた。また、壁もヨーヨーや扇で飾られるなど細部までこだわが見られた。着物や赤ずきんのドレスなどのコスプレをした店員もおり、気さくな会話ができる教室には多くの人で賑わっていた。

誰かが楽しめる演奏を

2日目の13時半から14時半まで吹奏楽部の演奏会「錦城添花」が第二体育館で行われた。この公演は第一部をクラシックステージ、第二部をポップステージと題し、様々なジャンルの音楽を楽しめる。錦城生に、保護者や中学生も訪れていた。特に盛り上がったのは第二部で、最初に演奏されたのは大人気アニメ「鬼滅の刃」遊郭編のオープニングテーマ「残響散歌」。知名度の高い楽曲であった



リズムに乗って演奏する

コースターで宇宙を冒険
3年I組は手作りジェットコースターを制作した。宇宙をテーマにした内装で、教室の中央近くにはロケットが置かれている。実際に乗ってみると、手作りとは思えないほどレベルが高いものであった。スターウォーズのR2-D2を模したトロココに乗り、教室をコの字形にまわっていたスタッフが待ち構えており、しっかりと受け止めてくれる。また、スターウォーズのキャラクターに扮しているスタッフもおり、待ち時間も楽しむことが出来た。

圧巻のパフォーマンス

ダンス部の定期公演は第一体育館で行われ、多くの観客で賑わった。定刻になると暗転し、ステージの幕が開いてパフォーマンス開始。ヒップホップやロックなどの様々なジャンルのダンスを、部員全員、あるいは男女別や学年別で分けた12個のプログラムで発表した。ダンス部員は、華やかな衣装に身を包み、スポットライトを浴びながら息の合ったパフォーマンスを披露。ストーリー性のあるダンスから、アクロバティックなもの、隊形移動を多く行うものまで観客を楽しませるため、様々な工夫がなされており、観客は圧倒されていた。次第に会場は拍手に包まれ、幕が閉じる瞬間までパフォーマンスとそのリズムを楽しんでいた。



迫力ある瓦割りを披露

声劇で桃太郎を表現

放送部は声劇「桃太郎29歳いざ行かん」二度目の鬼退治を1Bの教室で行った。教室に入ると、巻物風の紙に景色が描かれており、その景色を背景に放送部員が二役で物語を展開していく。鬼の態度、キジや犬の変わり様、所々で起きるボケには観衆から笑いが起きた。



桃太郎の世界に誘う

錦城祭で感じた魅力を知ろう

家族から見た錦城の印象は
2日目に行われたダンス部の公演に訪れていた錦城生の家族の秋本友美さん、恵莉菜さんは公演の感想を「かっこよかったです」と口をそろえて語った。錦城祭を訪れたのは初めてだといふ、友美さんは「みんな元気でいいと思うな人が多く印象良かったです」と話す。その後、妹の恵莉菜さんは錦城祭の印象について「青春！」と元気よく答えてくれた。



お洒落な先生大集合

錦城生のお兄さんがいるため、錦城祭を訪れた小松杏寿さん。錦城祭では3Fの迷路企画である「アドベンチャーワールド」に参加したという。「ゴールした後のクイズがとても難しかったですが、最後笑顔を見せる。特に印象に残ったのは3年C組の企画であちも楽しくなりました」と微笑みながら話した。また、錦城祭の魅力を伝えるために、OB・OGも活躍した。錦城のOB・OGも多く訪れ、2日間ともに職員室前はとて賑わっていた。今年卒業した中の西田真彩さんと本橋美波さんは「去年は自分たちがお店を出す側だったけれど、今年は客として来て見ている楽しかったです」と、錦城生がとて楽しんでくれた。OB・OGは、錦城の魅力を伝えるために、紙面作成まで上級生の力を借りずに全て自分たちで行う「1年生企画」として取り組んだ。2年生である自分たちは、張っている1年生を見守る立場に徹していたのだが、1年生が様々な店や施設を取材した後で「店員さんが優しくしてくれた」「たくさんサービスしてくれた」と晴れ晴れとした顔で語っているのを見ると、心が温まると思ってしまう。少しくらいは感じていた自分も、その中でふと思いついたあるテレビ番組がある。毎週火曜日の夜7時より日本テレビで放送されている『ヒューマングルメンタリー オモウマイ』という番組だ。自分が帰宅したとき、おもむろにテレビをつけてみると、自分が帰ったとき、おもむろにテレビをつけてみると、探検隊の価格で料理を提供する店や大ボリュームの料理を提供する店、そこで働く個性や温かさを持った店主や店員を特集している。番組で特集されている店に共通しているのは「地元との結びつきが強い」という点。「地元への恩返し」や「地域の幸せへの貢献」を目標に営業している店も多かった。そしてもう一つ印象深かったのは、ある店の店主が言っていた「人生は水を張った桶のようなもの。こちら側は手に水をためるとすれば指の隙間から逃げていくし、向こう側は水をたたとえており、人々を幸せにしようとするればその自分も幸せになれるし、自分だけ幸せになろうとすれば周りも幸せになっていく」と話した。今回取材した小松の店や施設の店主も、人々を幸せにしようとするという思いが、自分たちにも伝わるように話してくれた。自分たちにも伝わるように話してくれた。自分たちにも伝わるように話してくれた。

むらさき草

先日発行された錦城高校新聞399号の裏面にあって小松の魅力を特集した紙面が掲載された。この紙面は、新聞委員会の1年生が企画、取材、紙面作成まで上級生の力を借りずに全て自分たちで行う「1年生企画」として取り組んだ。2年生である自分たちは、張っている1年生を見守る立場に徹していたのだが、1年生が様々な店や施設を取材した後で「店員さんが優しくしてくれた」「たくさんサービスしてくれた」と晴れ晴れとした顔で語っているのを見ると、心が温まると思ってしまう。少しくらいは感じていた自分も、その中でふと思いついたあるテレビ番組がある。毎週火曜日の夜7時より日本テレビで放送されている『ヒューマングルメンタリー オモウマイ』という番組だ。自分が帰宅したとき、おもむろにテレビをつけてみると、自分が帰ったとき、おもむろにテレビをつけてみると、探検隊の価格で料理を提供する店や大ボリュームの料理を提供する店、そこで働く個性や温かさを持った店主や店員を特集している。番組で特集されている店に共通しているのは「地元との結びつきが強い」という点。「地元への恩返し」や「地域の幸せへの貢献」を目標に営業している店も多かった。そしてもう一つ印象深かったのは、ある店の店主が言っていた「人生は水を張った桶のようなもの。こちら側は手に水をためるとすれば指の隙間から逃げていくし、向こう側は水をたたとえており、人々を幸せにしようとするればその自分も幸せになれるし、自分だけ幸せになろうとすれば周りも幸せになっていく」と話した。今回取材した小松の店や施設の店主も、人々を幸せにしようとするという思いが、自分たちにも伝わるように話してくれた。自分たちにも伝わるように話してくれた。

錦城祭を終えた実行委員の思いは

実行委員長が振り返る
錦城祭実行委員は、前日準備で片側通行の呼びかけのポスターを張る作業や、当日の受付作業を行った。錦城祭実行委員長の中山仁さん(2C)は3年ぶりに外部からお客さんを招いたことについて「予期せぬトラブルもありましたが、これから少しずつコロナ前の活を取り戻していきたい」と話した。



一般客の多さに驚いたという

初日の感想は
錦城祭実行委員の金秀虎さん(1E)は「初めての錦城祭でしたが、思っていたよりも来客の人数が多かったです」と感想を語る。また、実行委員の仕事であるパンフレットの

制服の併用期間が始まりました！
併用期間は10月31日(月)までです。制服はルールを守って着用しましょう。
気温の低い日が増え始めているので、体調管理にもしっかいかかりましょう。

鬼の態度、キジや犬の変わり様、所々で起きるボケには観衆から笑いが起きた。実際に観賞した山本葵さん(1日)は「桃太郎のその後の世界、というのは考えたことがありませんでした。とても面白かったです。今回の話の続きがとてとても気になりました！」と笑顔で話してくれた。

個性豊かなコーデを披露
今年初開催となった中央委員会による企画「錦城コレクション」。ステージに隣接している特設のランウェイを、着

お洒落な先生大集合
即買したという。ショーの終了後、初代「錦城」お洒落な先生を決める投票が行われた。投票の結果、上原啓先生がグランプリに選ばれ、会場は大きな拍手に包まれた。

結果は日々の中にある

多くの部活が全国大会に出場

今年の夏休みも多くの部活動が活躍した。今号では、全国大会に出場して優秀な成績を収めた鉄道研究部、映画研究部、将棋部、囲碁(個人)で出場した生徒の喜びの声をお届けする。

鉄道研究部

8月19日(金)から21日(日)にかけて行われた第14回全国高等学校鉄道模型コンテストに鉄道研究部が出場し、努力賞、審査員特別賞(フアンタジー)、西武鉄道賞を受賞した。この大会は全国の高校が出場する高校生の大会で、全国最大規模の鉄道模型の大会でもある。錦城は4回目の出場であり、3部門での受賞は錦城史上初の快挙だ。今回は「水没都市ポストアポカリプス」という作品を作成した。「ポストアポカリプス」とは、SFの映画や小説の言葉で「崩壊後の都市」を意味する。作品は水没後の都市をテーマに、水中を鉄道が走る幻想的なジオラマとなった。制作チームであるアイコン芽依さん(2M)は「少人数での制作でしたが、各々の得意分野を活かし頑張って作業を進めました。それを目に見える形で評価してもらい、嬉しいです」と語った。作品の段ごたえについては「構想の段階から賞を取れる自信があり、出来映えも120%だと言える完成度に仕上がったと思います。見れば見るほどこだわりが詰まっている。作品は夏休み中の3週間ほどで仕上げ、制作人数は3人だという。作品の搬入日に仕上げがうまくいかず、直前まで作り直すこともあったものの、練習については「自分たちで課題を見つけて、どのように取り組めば良いかを考えることができた」と話した。



細部まで作りこまれた幻想的なジオラマ



製作のすべてが楽しかったです



実際のジオラマ 学校HPにも掲載中

れも含めて全てが楽しかったです」と語ったアイコンさん。「これからも他にないような作品を作っていきたいです」と話した。

映画研究部

7月27日(水)に第69回全日本学生映画コンテストが行われた。映画研究部は2年生が創作テレビドラマ部門、3年生が創作テレビドキュメント部門に出場し、両部門で優良賞(創作テレビドラマ部門は全国トップ5、創作テレビドキュメント部門は全国トップ10)を受賞した。創作テレビドラマ部門の作品「誰にでも活躍できる場所がある」は、部長の武志さん(2G)は「作品を自分のイメージとテーマに近づけるように制作しました」と話す。大会から学んだことや今回制作した作品の反省を聞くと「大会で見た他校の作品見事優勝を飾った。また、例年よりも自分自身を主将として全勝した」と話した。



いい作品作りのために 真剣に撮影する



硫黄岳山頂で 記念撮影

大きな挑戦から学ぶ

有志クイズ研究会

8月18日(木)、有志クイズ研究会は、立川市にある柴崎学習館で都立国分寺高校クイズ研究会と交流会を行った。クイズ大会「らめん杯」を受賞し、文部科学大臣賞を受けた。今大会は川上さんにあって高校生で最後の大会。優勝した心境を川上さんは「コロナ禍の中で大会を開催してくれた運営の方々にはとても感謝している話したうえで、地元東京で開催され、その中で立派な成績を残せて非常にうれしかったです」と語った。団体戦優勝の要因を聞くと「一緒に戦ったとき仲間がいたからです」と話す。団体戦はチーム内での雰囲気や勝敗を左右すると思ううえで、大会までにインターネットを通じてチームメイトと何度か対して親睦を深めたそう。試合当日の心境を「副将、三将が安定した勝利をしてとても頼もしく感じましたが、チームの主将という立場にプレッシャーもありました」と話した。その中で「試合の勝敗を意味する時間でした」と話した。小沼さんと平澤さんは「私たちが抜けた後、女子部員が1人しかいなくなってしまうので、ぜひ女子部員に入ってもらいたいです。将棋は指せば指すほど強くなるのが出てきます。強くなると、新しいチームでまた来年も出場してほしいです」と後輩にメッセージを送った。



学習館前でパチリ

将棋部

将棋部は8月3日(水)と4日(木)に行われた全国高等学校総合文化祭将棋部門に出場。全国大会は初めての場でも緊張しましたが「話すのは1年生の渡辺千紗さん(1E)。副将を務めた平澤さん(3C)は「様々な戦法の人と対戦できたので、いい経験になったと思います」と語る。主将の小沼弥生さん(3I)は「最後の大会だったので今までの成果を発揮できるように望むことが出来ました」と試合を振り返った。渡辺さんは「対戦相手の中には、自己流の指し方の選手もいたので、攻め方に苦労しました。でも、感想戦の時に直すところを指摘してもらったり、戦法を教えてもらったりと、とても有意義な時間でした」と話した。小沼さんと平澤さんは「私たちが抜けた後、女子部員が1人しかいなくなってしまうので、ぜひ女子部員に入ってもらいたいです。将棋は指せば指すほど強くなるのが出てきます。強くなると、新しいチームでまた来年も出場してほしいです」と後輩にメッセージを送った。

夏の大会で得たものは

野球部

7月10日(日)から31日(日)に行われた「第104回全国高等学校野球選手権大会(西東京大会)」で、野球部は4回戦で桜美林高校に惜敗した。熊倉誠希さん(3G)は「目標としていたベスト8になれず残念でしたが、昨夏ベスト8だった伯江高校に勝ったのは誇れる経験になりました」と大会を振り返る。野球部に所属して得たものを聞く。「試合で会う他校の生徒や先生、学校見学に来た中学生や保護者の方に対する接し方を学べました。目上の人への態度は社会に出て他人に劣らないと思います」と話した。最後に錦城生へ「試合での吹奏楽部やダンス部の応援、友人の励みの言葉がとて力になりました。本当にありがとうございました。」と感謝を述べる。



錦城生へ感謝を述べる

吹奏楽部

8月10日(水)から15日(月)にかけて開催された東京都高等学校吹奏楽コンクールで、吹奏楽部は銀賞を受賞した。部長の丸谷彩萌さん(2E)と副部長の廣澤沙季さん(2D)は、大会の結果について「去年の大会では銅賞だったので、一つ上の賞を取ることで、成長を感じて嬉しかったです」と語る。大会の練習については「自分たちで課題を見つけて、どのように取り組めば良いかを考えることができた」と話した。今年には文化祭での演奏会や、12月にルネ小平で開催されるクリスマスコンサートを開催する。是非吹奏楽部の演奏を聴きに行ってみてほしいか(紫・光)



去年からの成長を語る

1年生部員急募!

茶道同好会は現在3年生6人、2年生1人で活動中だ。同好会の魅力を部長の伊東花純さん(3H)に聞いた。茶道同好会の魅力は丁寧な物事を行う習慣がつくこと。「厳しい礼作法や物事の順序を正しく守り、精神統一をすることで一挙一動に意識をもって行うことが出来ます」と語る。1年生には「今からでも新しいことに挑戦して『楽しい』という経験を持ってほしいです」と話した。また、茶道同好会では現在、1年生部員の在籍が0人であり、絶賛募集中。文化祭では6階茶道室で体験会を行う予定で、自分でお茶を点て、飲むことが出来るそう。ぜひ、足を運んでみてはどうだろうか。(珠)



一緒にお茶を 楽しみませんか



高校生活最後 有終の美を飾る

意識しすぎずに気持ちを冷静にコントロールすること、そして自分の力を信じていることが試合の勝利につながることを実感しました」と話した。最後に錦城生に向けて「囲碁は、一度熱中すると抜け出せないくらい奥が深いゲームなのでぜひ調べてみてほしいです」と話した。

一射入魂の気持ちで挑戦

9月3日(土)、4日(日)に開催された第41回関東高等学校水越選手権大会に出場した。水越選手権大会は、8月25日(木)、26日(金)に16人が参加した東京都選抜18位入賞の成績を収め、東京都代表として今回の大会への切符を掴んだ。「関東大会へ行くことのできなかった仲間、皆さんの期待に応えることが出来るように頑張ります」と話した。弓道部の応援をよろしくお願ひします」と締めくくった。(桂)



大会のレベルを感じる 貴重な経験でした

東京総文特集 想いのこもったマドレーヌ

ときよう総文新聞部門の会場でマドレーヌを販売する高校生がいた。販売していたのは都立葛飾ろう学校の生徒である福田実司さん。7月ごろに大会サイドから声がかかり、出店が決定したという。当日はプレーン、抹茶味を各100袋程度用意していた。売り上げも上々で、取材時には残り5袋ほどになっていた。実際に購入し、食べてみた。気になるマドレーヌは1袋2個入り、抹茶味で100円というとても手頃なお値段で販売していた。マドレーヌを買う際には店員さんが優しい笑顔で微笑み、「ありがとう」と手話で挨拶してくれる。マドレーヌを買った人にお話を聞いてみると「香ばしさと、ほどよい甘さの上に抹茶の奥深い風味がして、とても美味しかったです」と答えてくれた。1袋2個入りと少し量が多いように感じるかもしれないが、マドレーヌ1つのサイズがとても小さいのでぺろりと一口で食べることができ、胃に負担にならず2つ余裕で食べられる。また、1袋2個入りということで友人と分けて食べることができ、実際にマドレーヌを3袋買った編集部員も家に持って帰り、家族皆で食べた。福岡さんによると、毎週金曜日には学校前で季節に合ったお菓子を作って販売しているという。12月には学校でレストランも開かれるそうで「ぜひ来てください!」と笑顔で呼び掛けた。(歩・金)



手作りの温かみを感じる